

平成29年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	33・1	学校名	清水南高等学校・同中部	記載者	合田 俊弘
------	------	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	中高一貫教育校にふさわしい教育課程の検討、授業改善及び学習指導の充実を図る。	「授業がわかる」と答える生徒の割合：80%（中・高共通）	B C	B C	中高で数値に差がある。高では特進クラスがあるため、普通クラスの生徒が意欲やモチベーションを失わないよう丁寧な指導が必要だ。
		週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：80%（中・高共通）	中B 高C	C	高校受検がないこともあり中3高1で学習時間がおちこむ。生徒が自主的に学習に取り組むよう、まずは目的意識を持たせたい。
		校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計 12回 美術鑑賞、実技講習会等実施回数：年間計 10回	A	A	授業と校外での演奏会や週休日の講習会、部活動が連携し生徒を育てる芸術科の教育プログラムは充実している。
		芸術科を本校の特色として感じている生徒の割合：80%	A	A	評価数値は確実に伸びている。普通科の生徒も芸術科を通じて、芸術に身近に親しめる学校になっている。
イ	こころざしを育むための進路指導の充実を図る。	講演、講義等の回数：年間計7回（中部）	A	A	学問に加え、なぜ学ぶのかを教える必要がある。大学見学等を機に将来へのビジョンが見えることがある。生徒の刺激となる進路指導を求めたい。
		中学：学力到達度調査（中3の評価A以上を27%以上） 高校：国公立大学実合格率（普通科35%以上）、芸術系大学実合格率（芸術科70%以上）	B C	B -	中3生は進路実現に向け、一定の学力が維持できている。 高校でも一層の指導を期待したい（関係者評価実施時に入試実績が出ていないため評価なし）
ウ	中高が連携し、効果的な生徒指導を推進する。	年間の交通事故件数：中部・高校ともに前年度比減	C	C	中高生の自転車マナーは悪い。事故件数は年5,6件でも多い。耳にタコができるまで指導をすべきだ。
		「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合：中高70%	C	C	他の項目に比べ、数値が低く、過年度比でも下がっている。深刻にうけとめ背景をきちんと分析すべきだ。
		「自分には良いところがある」と答える生徒の割合：70%（中・高共通）	中A 高C	A C	ボイスシャワーの中身はどうか。生徒を観察して、場面に応じて効果的な褒め方、叱り方を工夫し、生徒の自己肯定感を高めたい。
		生徒向け「相談室だより」発行：年間計 10回	B	B	「相談室だより」はよいが、不登校や学校生活に困難を感じる生徒への支援は効果をあげているのか。

様式第5号

		「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%(中・高共通)	C	C	思春期の生徒が先生を頼るのは難しい面もある。相談や支援の多様な受け皿があるとよい。発達段階の違いを考慮し中高別の評価でもよい。
エ	学校行事、生徒会活動、部活動等の充実を図る。	部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上(中高)	A	A	ラグビーや管弦楽など生徒が部活動で活躍している。県市でガイドラインが作られるなか、生徒にも職員にも無理なく継続できる部活動の在り方を検討して欲しい。
		海外研修(中3、高2)で「充実している」と答える生徒の割合：90%(中・高共通)	A	A	生徒の評価は高いが、生徒は海外へ行けるだけで満足する面もある。学校は研修の効果をあげるため、渡航先や研修内容の検討が常に必要だ。
		地域に目を向けた教育活動の実施：年間5回	B	B	管弦楽部や浜清掃、福祉活動などの実践で生徒は地域に好意的に受け入れられている。活動の継続と拡大を期待する。
		「学校が楽しい」と答える生徒の割合：80%(中・高共通)	中A 高C	A C	中高の差が大きい。中学は「表現」など楽しい授業があるが、高校では進学のための学習を負担に感じるのではないか。高校には別の目標設定があってもいい。
オ	開かれた学校づくり、安心・安全の学校づくりを推進する。	土曜オープンスクール参加者数：年間1,600人	C	B	オープンスクールの参加者は昨年並みで目標値に近いので評価Bでよい。HPのアクセス数は十分多いが志願者確保に役立っているか。
		ホームページアクセス：年間500,000件	A	A	
		PTA総会出席率：50%	B	B	中高で数値に差がある。目標値は満たしたようだが、保護者が学校へ来たくくなるような魅力的な企画が継続して必要だ。
		学年保護者会の出席率出席率50%以上(中・高共通)	中A 高B	A B	
		実践的防災訓練実施：年間3回 地域防災訓練参加率：中等部75%、高校45%	A B C	A B C	津波避難が必要な地区であり、真剣な訓練や学習を継続したい。地域防災参加率は中高で差が大きい。高校生の一層の参加を求めたい。
	講話や研修等の取組：月1回以上 県報告レベルの不祥事発生：0件	A	A	教員の不祥事に対する社会の見方は厳しい。報道された事案にはあきれられるものもあり、管理職は口が酸っぱくなるほど注意する必要がある。	
カ	事務業務の見直しと改善を図る。	学校経営予算の執行残：10万円未満	A	A	執行残を減らすことはよいが、予算が有効活用されていることが前提となる。